

免責事項

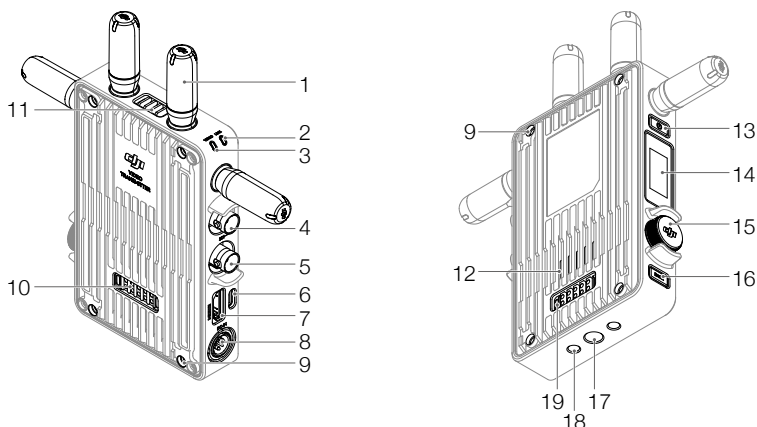
ご使用前に、この文書全体に目を通し、安全性とコンプライアンスに関するガイドラインについて注意深くお読みください。

はじめに

DJI™ 映像トランスミッターは、DJI の O3 Pro 映像伝送技術を採用し、最大 6 km* の伝送範囲、ビットレート 50 Mbps の HD 動画伝送、わずか 70 ミリ秒の低遅延を実現します。このトランスミッターは、複数の周波数帯に対応すると同時に、DJI 高輝度遠隔モニターまたは DJI 映像レシーバーと併用時には、複数のレシーバーと 1 台のトランスミッターを接続することができ、映画、テレビシリーズ、広告、ドキュメンタリーなどのメディア向けの映像制作に関する要件を満たします。

* FCC 準拠で、電波干渉のない環境下で、映像伝送システムを制御モードで動作させ、測定した値です。
(日本国内：4 km)

概要



1. 脱着可能なアンテナ
無線信号を伝送します。
2. リンクステータス インジケーター
レシーバーとトランスミッター間のリンクステータスを示します。点滅パターンに関する詳細は、「リンク」の項を参照してください。
3. 動画ステータス インジケーター
動画ソース信号入力の有無を示します。緑色に点灯している場合は入力があることを示し、赤色に点灯している場合は入力がないことを示します。
4. SDI出力ポート
トランスミッターからの動画ソース信号を出力します。
5. SDI入力ポート
動画ソースからの信号をトランスミッターに入力します。

6. USB-Cポート

USB-Cケーブルを使用してDJI Assistant 2 (Roninシリーズ) ソフトウェアに接続し、デバイスのアクティベーションとファームウェア更新を行います。音声通話用にマイク内蔵のヘッドフォンを接続します。ご使用前に、トランスミッター側でType-C機能を設定する必要があります。詳しくは「メニュー」のセクションを参照してください。

7. HDMIポート (Type-A)

動画ソース入力信号を受信します。

8. DC-INポート

付属の電源ケーブルを使用して映像トランスミッターに電力を供給します。電圧は6~18 Vで、最大電流は2 Aです。

9. M4ねじ穴

バッテリーアダプターまたはその他のアダプターを拡張用に取り付けるときに使用します。

10. 電源出力ポート

外部デバイスに電力を供給します。

11. 排気口

12. 吸気口

 排気口、吸気口、またはバッテリーアダプターの両側（バッテリーアダプターを取り付ける場合）を塞がないでください。過熱によりデバイスの性能に影響を及ぼす可能性があります。

13. 電源ボタン

1回押すと、電源が入ります。長押しすると、電源が切れます。

14. ディスプレイ画面

デバイスの状態とメニューが表示されます。

15. メニューダイヤル

ダイヤルを回すとメニューの設定を選択することができ、ダイヤルを押すと、メニューの設定を確定します

16. 戻るボタン

押すと、メニューの前の画面に戻ります。

17. 3/8-16 ねじ穴

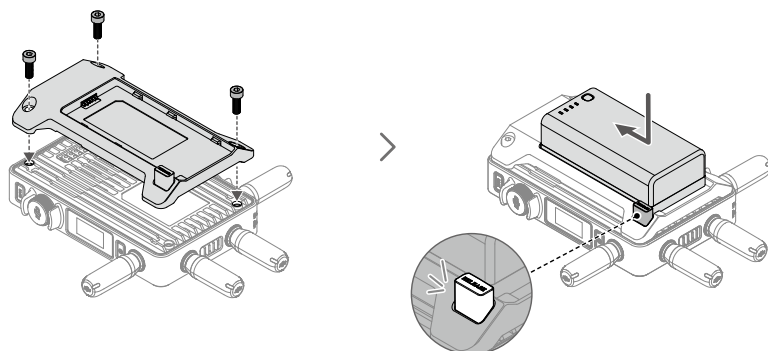
18. 1/4-20 ねじ穴

19. 外部電源入力ポート

バッテリーアダプターおよび互換性のあるバッテリーを取り付けて、映像トランスミッターに電力を供給します。

取り付けと接続

WB37インテリジェント バッテリーの取り付け



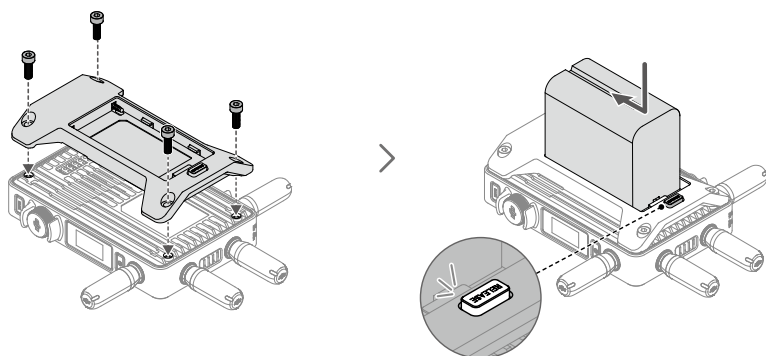
初めて使用する前に、WB37バッテリー充電ハブ(USB-C)で充電して、WB37バッテリーをアクティベーションしてください。詳細については、WB37バッテリー充電ハブ (USB-C) のユーザーガイドを参照してください。

1. WB37バッテリーアダプターを映像トランスミッターの背面に取り付け、3本のM4×12ねじで締めます。
2. WB37バッテリーをバッテリースロットに挿入し、奥まで押し込みます。バッテリー取り外しボタンが飛び出ると、バッテリーが正しい位置に挿入されたことを示します。ボタンの状態を確認してください。

⚠ WB37バッテリーは動作環境温度範囲で使用するようにしてください。いかなる方法でもバッテリーの分解や穴あけを行わないでください。バッテリーの漏れ、発火、爆発が起こる恐れがあります。ご使用前に『WB37 インテリジェント バッテリー 安全に関するガイドライン』を参照してください。

バッテリーを取り外すには、取り外しボタンを押したまま、バッテリーを反対方向に動かします。

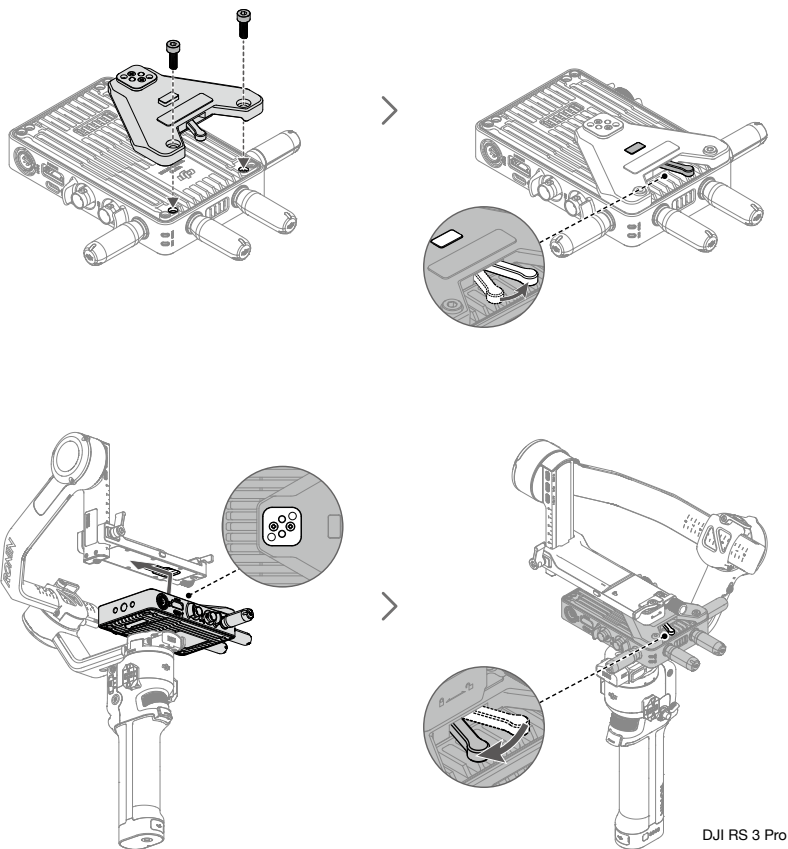
NP-Fシリーズバッテリーの取り付け



1. NP-Fバッテリーアダプター (TX) を映像トランスミッターの背面に取り付け、4本のM4×12 ねじで締めます。
2. NP-Fバッテリーをバッテリースロットに挿入し、奥まで押し込みます。バッテリー取り外しボタンが飛び出ると、バッテリーが正しい位置に挿入されたことを示します。ボタンの状態を確認してください。

バッテリーを取り外すには、取り外しボタンを押したまま、バッテリーを反対方向に動かします。

RSジンバル取り付けプレートの取り付け



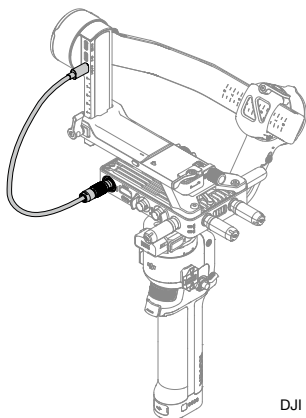
映像トランスミッターをDJI RSシリーズのジンバルまたはコールドシューを搭載した互換性のある他のデバイスと併用する場合は、RSジンバル取り付けプレートが必要です。次の説明では、例としてDJI RS 3 Proを使用しています。

1. ジンバル取り付けプレートを映像トランスミッターの前面に取り付け、2本のM4×12ねじで締めます。
2. ジンバル取り付けプレートのレバーを反時計回り（ロック解除マークの方向）に動かして、位置決めブロックを下げます。
3. ジンバル取り付けプレートのコールドシューをDJI RS 3 Proに接続します。
4. ジンバル取り付けプレートのレバーを時計回り（ロックマークの方向）に動かして、映像トランスミッターをロックします。

接続

DJI Transmission USB-C 電源ケーブル

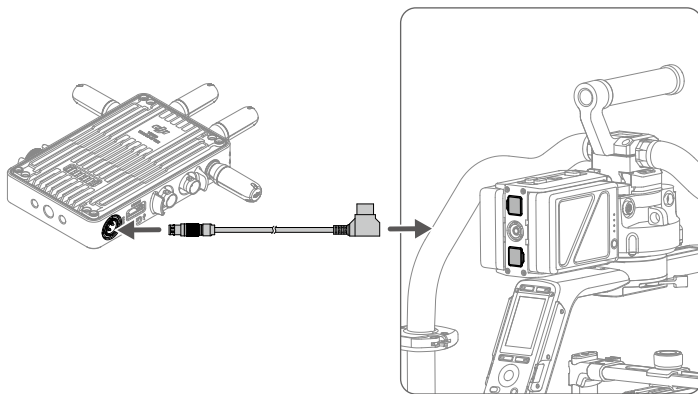
DJI RS 3 Proの映像伝送／LiDARレンジファインダーポート(USB-C)を、映像トランスミッターのDC-INポートに接続して、DJI RS 3 Proから電力を供給します。



DJI RS 3 Pro

DC - P-Tap電源ケーブル

Ronin 2のP-Tapポート (14.4 V)を、映像トランスミッターのDC-INポートに接続して、Ronin 2から電源を供給します。

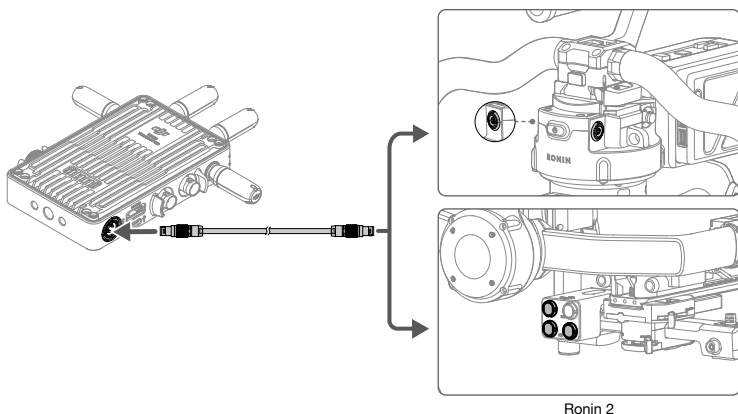


Ronin 2

DJI DC電源ケーブル

Ronin 2の電源ハブ上またはパン軸モーターの上にあるアクセサリ電源ポート (14.4 V) ポートを、映像トランスミッターのDC-INポートに接続して、Ronin 2から電源を供給します。

 Ronin 2のパン軸モーターの上にあるポートに接続する場合、映像伝送システムの制御モードは使用できません。



アクティベーション

映像トランスミッターを初めて使用する場合は、アクティベーションが必要です。映像トランスミッターの電源を入れ、USB-Cケーブルでパソコンに接続します。DJI Assistant 2 (Roninシリーズ) を開き、DJIアカウントでログインし、対応するデバイスのアイコンをクリックして、画面の指示に従ってデバイスをアクティベーションします。

DJI Assistant 2のダウンロードはこちら：<https://www.dji.com/transmission/downloads>

リンク

ご使用前に、映像トランスミッターをレーザーデバイスにリンクする必要があります。映像トランスミッターの映像伝送システムには制御モードと配信モードがあり、リンク方法がそれぞれ異なります。手順とリンクステータス インジケータの説明については、次の項を参照してください。

制御モード

1. 映像トランスミッターの電源を入れます。リンクステータス インジケータが赤色と緑色に交互に点滅し、デバイスのリンク準備が完了したことを示すまで、映像トランスミッターのメニューダイヤルを長押しします。
2. DJI 映像レーザーの使用:

映像レーザーの電源を入れます。ダイヤルを押して接続メニューに入り、ダイヤルを回してメニューの[制御]を選択し、ダイヤルを押して確定します。映像レーザーを[制御A]

または[制御B]に設定し、ダイヤルを再び押して確定します。ディスプレイ画面には[リンク中]と表示され、リンクステータスインジケータが赤色と緑色に交互に点滅し、デバイスがリンクしていることを示します。

DJI 高輝度遠隔モニターの使用:

遠隔モニターの電源を入れます。●●●をタップし、[System Menu] (システムメニュー)、[Connection Settings] (接続設定) の順に移動します。[Control Mode] (制御モード) を選択し、モニターを[Control Monitor A] (制御モニターA) または[Control Monitor B] (制御モニターB) に設定し、[Link to Control Monitor A/B] (制御モニターA/Bにリンク) をタップしてリンクステータスを開きます。

3. リンクが完了すると、リンクステータス インジケータが緑色で点灯します。

配信モード

1. 映像トランスミッターの電源を入れます。映像トランスミッターのメニューダイヤルを押して、ダイヤルを回してメニューの[Broadcast] (配信) を選択し、配信モードを有効にし、チャンネルを選択します。

2. DJI 映像レシーバーの使用:

映像レシーバーの電源を入れます。ダイヤルを押して接続メニューに入り、ダイヤルを回してメニューの[配信]を選択し、ダイヤルを押して確定します。検索結果が表示されるまで待ち、接続するデバイスを選択します。

DJI 高輝度遠隔モニターの使用:

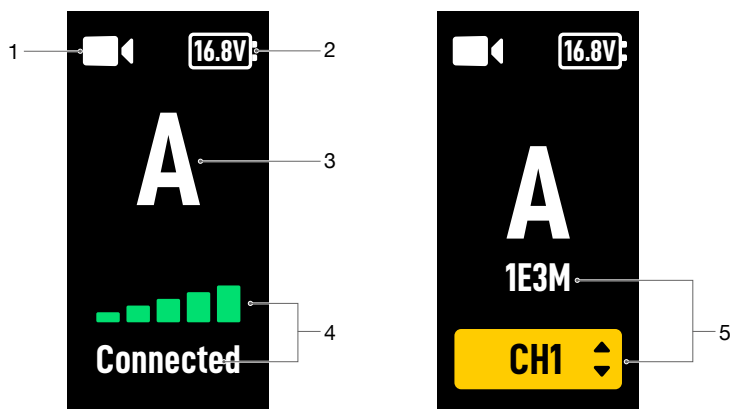
遠隔モニターの電源を入れます。●●●をタップし、[System Menu] (システムメニュー)、[Connection Settings] (接続設定) の順に移動します。[Broadcast Mode] (配信モード) を選択すると、モニターは配信モードが有効になっている近くのデバイスを自動検索します。モニタリングするデバイスをタップすると、対応するデバイスからのライブビューが遠隔モニター上に表示されます。画面右側のカメラ番号をタップすると、ライブビューを更新するか、モニタリングしていたデバイスを切り替えます。

リンクステータス インジケータ

リンクステータス インジケータ	説明
赤色点灯	デバイスは起動していますが、接続していません。
赤色と緑色に交互に点滅	リンクしています。
緑色点灯	制御モードで正常にリンクしています。無線映像伝送が正常です。 配信モードが有効です。
赤色点滅	デバイスが故障しています。DJIサポートに連絡してください。

ディスプレイ画面操作

ホーム画面



1. 動画信号入力ステータス

 /  : 動画ソース信号入力の有無を示します。

2. 電源電圧

 : バッテリーまたはDC-IN電源入力の電圧が表示されます。

3. デバイス番号

A : 映像トランスミッターのデバイス番号が表示されます。メニューでその番号をA～Pの文字に設定できます。

4. 映像伝送信号品質と接続ステータス

 : 配信モードが無効である場合、レシーバーとトランスミッターの間の接続状態と信号品質が表示されます。接続済（緑色）、弱信号（オレンジ色）、強い干渉（赤色）、接続切断（グレー）の4種類のステータスがあります。

5. 配信コードとチャンネル

1E3M : 映像トランスミッターの配信モードが有効であるときにデバイスの汎用一意識別子 (UUID)が表示されます。

CH1 : チャンネルモードが手動に設定されている場合、使用中のチャンネルが表示されます。メニューダイヤルを2回押すと、チャンネルを素早く調整できます。

AUTO : チャンネルモードが自動に設定されている場合、このアイコンが表示されます。チャンネルを手動で調整することはできません。

メニュー

ホーム画面で、映像トランスミッターのメニューダイヤルを押してメニューを開きます。デバイス番号の設定、配信モードの有効化、配信画質や言語の選択、映像伝送チャンネルステータスとデバイス情報の表示が可能です。ダイヤルを回すとメニューの設定を選択することができ、ダイヤルを押すと、メニューの設定を確定します。戻るボタンを押すと、前の画面に戻ります。

配信画質

配信モードが有効な場合、メニューに[Broadcast Quality]（配信画質）設定が表示されます。[HD]と[Smooth]（スムーズ）のどちらかを選択します。これら2種類の画質は、遠隔モニターのダウンリンク帯域幅設定の40MHz（HD）と20MHz（スムーズ）に対応しています。画質を[Smooth]に設定した場合、HDに設定した場合より、さらに多くのチャンネル数を利用できます。

Type-C 機能

DJI Assistant 2でファームウェア更新にUSB-Cポートを使用する場合は、[USB]を選択します。

制御モードでトランスミッターとレシーバーのType-C機能を[音声通話]に設定し、マイク内蔵ヘッドフォンをUSB-Cポートに接続すると、トランスミッターとレシーバー間で音声通話が可能になります。音声通話の音量を調整するには、ヘッドフォンの音量ボタンを使用します。

 対応ヘッドフォンについては、DJI公式サイトの製品ページのFAQページをご覧ください。その他の48kHz/16bitデジタルヘッドフォンにも対応しています。

ファームウェア更新

DJI Assistant 2（Roninシリーズ）ソフトウェアを使用して、映像トランスミッターのファームウェアを更新します。

1. デバイスの電源を入れます。メニュー上で、Type-C機能が[USB]に設定されていることを確認します。USB-Cケーブルで、デバイスをパソコンに接続します。
2. DJI Assistant 2（Roninシリーズ）を起動し、DJIアカウントでログインします。
3. デバイスを選択し、画面左側にある「ファームウェア更新」をクリックします。
4. ファームウェアを選択します。
5. ファームウェアのダウンロードと更新が自動的に行われます。
6. ファームウェア更新が完了すると、デバイスが自動的に再起動します。

仕様

重量	約350 g (トランスミッター本体のみ、アンテナを除く)
サイズ	127×97×26 mm (アンテナを除く)
動作周波数 ^[1]	2.4000～2.4835 GHz、5.150～5.250 GHz、5.250～5.350 GHz、 5.470～5.725 GHz、5.725～5.850 GHz
伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz : <33 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC (日本)) 5.8 GHz : <33 dBm (FCC/SRRC)、<14 dBm (CE) 5.1 GHz : <23 dBm (FCC/SRRC/CE/MIC (日本)) 5.2 GHz : <30 dBm (FCC)、<23 dBm (SRRC/CE/MIC (日本)) 5.5 GHz : <30 dBm (FCC)、<23 dBm (CE/MIC (日本))
消費電力	11 W
電源電圧	外部電源入力ポート : 6～18 V DC-INポート : 6～18 V
出力電圧	電源出力ポート : 6～18 V
駆動時間 ^[2]	3時間40分
入力動画フォーマット	1080p23.98/24/25/29.97/30/50/59.94/60、 720p50/59.94/60
出力動画フォーマット	1080p23.98/24/25/29.97/30/50/59.94/60、 720p50/59.94/60
入力音声フォーマット	HDMI (エンベデッド対応)
出力音声フォーマット	PCM
映像伝送システム	O3 Pro
最大ビットレート	40 Mbps
遅延	70 ms (1080p 60fps)
動画コーディング形式	H.264
最大伝送距離	6 km (FCC)、4 km (CE/SRRC/MIC (日本)) (障害物、電波干渉のない場合)
最大通信帯域幅	40 MHz
動作環境温度 ^[3]	-10℃～45℃

- [1] 現地の法規制により、国によっては、5.1/5.2/5.8GHz周波数帯が使用できない、または、5.1/5.2GHz周波数帯が屋内でのみ利用可能である場合があります。5.600～5.650 GHzは使用しません。(日本国内では、5.8 GHz帯は使用不可)
- [2] WB37インテリジェント バッテリーが完全に充電された状態で、DJI 高輝度遠隔モニターを使用し、室温25℃の環境でテストした測定値です。
- [3] WB37 インテリジェント バッテリー使用時、0℃以上の温度の環境でデバイスを操作することを推奨します。0℃を下回る環境で使用する場合、バッテリーを保温する対策を講じてください。